

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00588

研究課題名(和文) 前三千年紀楔形文字言語の比較研究 イラク・イラン出土の新資料を用いて

研究課題名(英文) A Comparative Study of Cuneiform Languages in the Third Millennium B.C.: through New Texts from Iraq and Iran

研究代表者

森 若葉 (Mori, Wakaha)

同志社大学・研究開発推進機構・共同研究員

研究者番号：80419457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、未公開楔形文字資料を公刊しそれらによりシュメール語の比較研究をおこなうことを目的としたものである。対象資料は、イラクで所蔵されるイラク・ギッシャ出土資料、イラン国立博物館所蔵のイラン・アンシャン出土資料(シュメール語、エラム語、アッカド語資料)、京都大学総合博物館所蔵のイラク出土の楔形文字資料である。これらを共同研究者とともに研究し、翻字、翻訳、手写コピーの出版、および公刊の準備をおこなった。これらの調査研究を行った紀元前三千年紀のシュメール語資料にかんし、文法接辞のあらわれかた、書記方法、楔形文字の字体などに、時期だけでなく地域によって違いがみられることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中近東情勢に懸念があるなか、イラク・イラン両国と日本の研究協力により、古代メソポタミアの未公開言語資料のあらたな公刊には大きな意義がある。イラク・ギッシャの古シュメール語文書は、出土状況が確認できる世界の楔形文字研究にとって重要な資料群であり、イランのアンシャン文書は、エラム語、アッカド語、シュメール語の複数言語の楔形文字資料である。資料には、王碑文、行政経済文書、奉納文書、神名リストなどが含まれる、これらの資料の公刊により、歴史学、言語学、宗教学にあらたな研究データを提供できる、本研究は、日本とイラク・イラン両国との友好的な学術・研究関係持続・発展に貢献するものである。

研究成果の概要(英文)：This research project aims to publish unpublished cuneiform texts: 1) the texts from Anshan, Iran (Sumerian, Elamite, and Akkadian) in the collection of the National Museum of Iran, 2) the texts from Gissa, Iraq, and 3) the cuneiform tablets in the collection of the Kyoto University Museum. We translated and transcribed them, and published Kyoto University tablets in 2022. Gissa texts are now in preparation for publication. Comparative study of Sumerian tablets from the third millennium B.C. confirmed that there are differences in the appearance of grammatical affixes, the form of cuneiform signs, and writing styles, by region and period.

研究分野：シュメール語学、楔形文字学、言語学

キーワード：シュメール語 楔形文字 粘土板 エラム語 古代メソポタミア アッカド語

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

古代メソポタミアの楔形文字粘土板は、3千年以上にわたりいろいろな言語で記された。そのなかで最古の言語であるシュメール語はシュメール語地域以外でも広く書き記されたことが知られている。本研究では、日本人研究者がシュメール時代のイラン・イラク両国の未公開資料を同時に研究できる貴重な機会をえたことにより、これらの公開、比較研究を行うものである。

### 2. 研究の目的

古代メソポタミアの楔形文字粘土板は、3千年以上にわたりいろいろな言語で記された。その最古の言語であるシュメール語はシュメール語地域以外でも広く書き記されたことが知られている。本研究では、日本人研究者がシュメール時代のイラン・イラク両国の未公開資料を同時に研究できる貴重な機会をえたことにより、これらの資料の公開を進め、比較研究を行うものである。

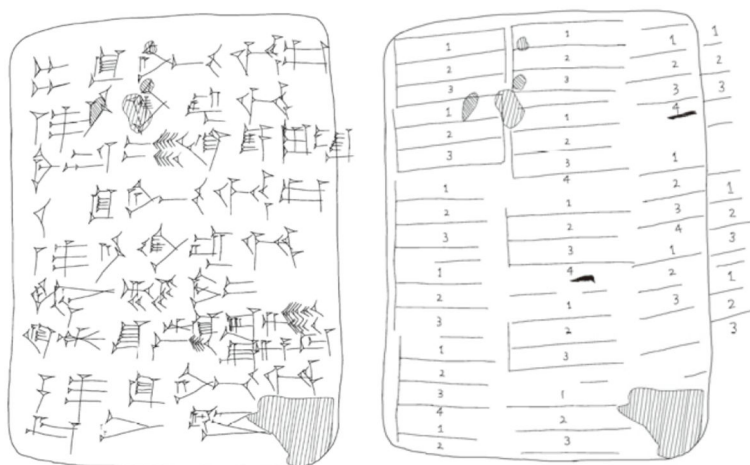
### 3. 研究の方法

イラン国立博物館所蔵のイラン・アンシャン出土資料、イラクで所蔵されるイラク・ギッシャ出土資料、京都大学総合博物館所蔵のイラク出土の楔形文字資料を研究対象とし、それぞれの調査を行った。イランの資料については、過年度の現地調査のさいの写真、3D画像をもとに研究分担者、研究協力者をはじめとする共同研究者とともに研究をおこなった。イラク所蔵の資料については現地であらたに写真撮影してもらうことにより研究解読作業を行った。京都大学総合博物館所蔵資料については、博物館での現地調査により調査研究を行った。

### 4. 研究成果

京都大学総合博物館が所蔵する60枚あまりのシュメール語およびアッカド語の楔形文字粘土板資料について、2022年に共同研究者とともにそれぞれの粘土板の写真・手写テキスト、翻字・翻訳、高精細スキャニング画像を付して出版を行った(代表者はそのうち50枚余りの翻字・翻訳、手写コピーを担当)下記はその1点の表面の手写コピー(左)と円筒印章押印の配置図(右)である。内容は、王妃のもとでの支出記録で、女性馭者や女性歌手を含む複数の人物へ穀類が支出されている。

**京都大学総合博物館所蔵シュメール語粘土板 993-28** (ウンマ、6.1×4.4×2.0 cm、ウル第三王朝期シュシン王治世 4年)「王妃宮での穀類の支出」(左:粘土板表面本文手写コピー、右:粘土板表面押印配置)[森・山本・村上 2022, 104頁(手写コピー)、145頁(印影)] 高精細画像は40頁に掲載



本文の上に重なるように、右図に示すように、印章に刻まれた4行の刻文のうち、3行目までが繰り返し全面に押されている。行数のみを表示している。円筒印章の図像部分はほとんど押印されていない。

#### 円筒印章刻文の翻字・翻訳

1) Lu<sub>2</sub>-eb-gal, 2) dub-sar, 3) dumu Ur-ge<sub>6</sub>-par<sub>4</sub>, 4) gudu<sub>4</sub>-<sup>d</sup>Inana

1-2) 書記のルエブガル、3) ウルゲパルの子、4) イナンナ神のグドゥ神官」

本出版(森ほか2022)は2025年に京都大学でオンライン公開の予定である。さらにこれらの調査をもとにウル第三王朝期の押印の特徴について論文の出版を準備中である。

イラク・ギッシャ(出土の70枚余りのイラク所蔵未公開シュメール語資料については、発掘者のハイダル・アルマモリ・オライビ氏の許可のもと、2020年から、研究分担者での前川和也氏(国土館大学・京都大学)とともに毎月共同研究をおこなっている。現地調査が困難であるため、イラクのオライビ氏から写真を送ってもらい内容分析し、手写コピーの作成し、出版に向けた準備を行っている。前三千年紀前半の粘土板群で、王碑文、語彙リスト、行政経済文書(売買記録、奉納記録を含む)が含まれる、書記方や字体などから書かれた時期は数百年にわたると推定される。2025年度に公開を予定している。

代表者は京都大学大学院文学研究科とイラン国立博物館のMOUに基づき、同博物館所蔵未公開楔形文字資料(古代イラン・エラム地域出土、紀元前三千年半ば~紀元前二千年紀楔形文字資料)

にかんし、公刊作業に携わってきた。研究分担者の前川氏ほかと共同研究を行い約百点のアンシャン資料（前三千年紀・前二千年紀のエラム語、シュメール語の資料）の公刊準備をすすめており、その中から、エラム語が話されていたアンシャンから出土したシュメール語王碑文断片も発見できた(Mori 2020)。アンシャンはエラム語地域であるが、アッカド語とシュメール語も書記言語として用いられていた。これらの資料は、古代の多言語社会、複数の書記言語が学校で習得されていた社会の言語使用状況を知るうえで貴重な言語研究データである。アンシャン出土シュメール語行政経済文書は、その書記法、文字特徴にアンシャンの独自性が見られ、文字体や外形が異なるものも確認された、シュメール語資料のなかには、現地で作成されたもののほかに、文字体や文法要素から、シュメール中心地域から持ち込まれたと推定される資料が存在する。シュメール語資料の研究調査により、接辞の使用の特徴、語彙、書記法の特徴、楔形文字の字体のほか、押印にも時代だけではなく地域性があることがわかってきた。あらたに調査中の資料も加え、今後も研究を継続の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山本 孟・森 若葉・上野 貴史	4. 巻 53
2. 論文標題 広島大学文学部所蔵楔形文字粘土板文書の予備調査	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ニダバ	6. 最初と最後の頁 89-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 未公開Umm-al-Aqarib (Gissa) 文書（初期王朝期 IIIb期）：その概要
3. 学会等名 第66回シュメール研究会（京都大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 シュメール語文法
3. 学会等名 第6回楔形文字文書研究会（オンライン）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 ウル第三王朝期シュメール語粘土板を読む 初級練習問題集
3. 学会等名 第9回楔形文字文書研究会（関西学院大学）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 ウル第三王朝期粘土板の押印について
3. 学会等名 第65回シュメール研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森 若葉・山本 孟
2. 発表標題 総合博物館所蔵 楔形文字粘土板文書について
3. 学会等名 第119回京都大学総合博物館セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 シュメール語概説
3. 学会等名 第4回楔形文字文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wakaha Mori
2. 発表標題 Sumerian Tablets of Kyoto University Museum
3. 学会等名 The 25th Assyriological Workshop
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 粘土板のデジタルデータ化について - Ur III ウンマ出土粘土板の3Dモデル、高精細スキャンニング
3. 学会等名 第64回シュメール研究会（京都大学羽田記念館・オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 シュメール語のギルガメシュ物語邦訳の問題
3. 学会等名 第1回くさび研究会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 「シュメール語の基礎知識」「古代メソポタミアの言語状況－ 語彙テキスト・文法テキスト」について」
3. 学会等名 第2回くさび研究会（オンライン）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 森若葉・山本孟・村上由美子 (Mori, W., H.Yamamoto and Y. Murakami)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学総合博物館 (Kyoto University Museum)	5. 総ページ数 168
3. 書名 京都大学総合博物館収蔵資料目録 第9号・楔形文字粘土板(Collections in the Kyoto University Museum, No.9. Cuneiform Tablets)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 和也  (Maekawa Kazuya)  (60027547)	国土館大学・イラク古代文化研究所・共同研究員    (32616)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松島 英子  (Matsushima Eiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関